

社会とつながり、支え合う

ヒトモノコト

子育てにまつわるさまざまな社会の動きや活動、人物などをクローズアップ!

重症心身障害児の親たちが立ち上げたサポート団体

特定非営利活動法人 **なかのドリーム**

医療的ケアが必要な重症心身障害児は、年々ふえています。重い障害があっても、子どもたちが家族で安心して暮らせる地域づくりのために、親たちが立ち上がり活動しています。

HITO

MONO

KOTO



なかのドリームの目標

なかのドリームは、重い障害のある子と家族が安心して暮らせる地域づくりを目指します

安心 + 自立 = 一人ひとりが生き生きと生活する地域社会

重症心身障害児の放課後等デイサービスを運営し、将来的に居宅介護や訪問介護などを受けながら安心して自立した生活を送れるシェアハウスの設立を目指します。

専門家や親たちのネットワークを生かし、重症心身障害児者とその家族が地域から孤立しないように支え、交流や学習の機会と気軽に相談できる拠点を作ります。

重症心身障害児者とその家族が地域で生き生きと生活するための各種生活支援に関する事業を行い、地域福祉社会の増進に寄与します。

障害児の親を地域から孤立させない

なかのドリームは、重症心身障害児通所支援事業や、訪問介護事業を運営し、2015年から幅広く障害児・者支援活動をしているNPO法人。2007年に重症心身障害児の親が主体となって発足した「なかの重度心身障害児親子の会 おでんくらぶ」をきっかけに、医療的ケアの必要な子どもとその家族のサポートを行っています。重症心身障害児とは、重度の身体障害と知的障害の両方を抱えている子どものこと。医療的ケアを必要とする子も多くいます。重症心身障害児の母として、社会とのつながりを感じながら生活できる場所を作りたいと立ち上がったのが、現在なかのドリーム理事の福満美穂子さんと岡田美奈子さんでした。2人の出会いは福満さんの長女が

4歳、岡田さんの長男が3歳のとき。さまざまな子どもたちが通う療育センターで、2人の子どもの障害は特に重く、顔を合わせては「これからどうなっていくんだろう…」と不安な日々を過ごしていたといいます。

そんなときに社会福祉士で当時、中野区議を務めていた現副理事長の佐藤浩子さんと出会い、重症心身障害児を抱えるお母さんたちの悩みを少しでも解決できるようにと、サポートを始めました。そのなかで大切だと感じてきたのが、障害児を抱えた親を地域から孤立させないこと。「障害児の親御さんにとっては、応援されていると思えること、数は少なくとも同じ境遇の仲間がいるということが何よりも励みになり、しだいに前を向けるようになっていくんです。親が元気になるれば、子どもも元気になる。ここに通い始



ひとりひとりの状態に合わせて、看護師が医療的ケアを行っています。



目が見えない、視力が弱い子どものために触れて楽しめるように手を加えられた絵本。